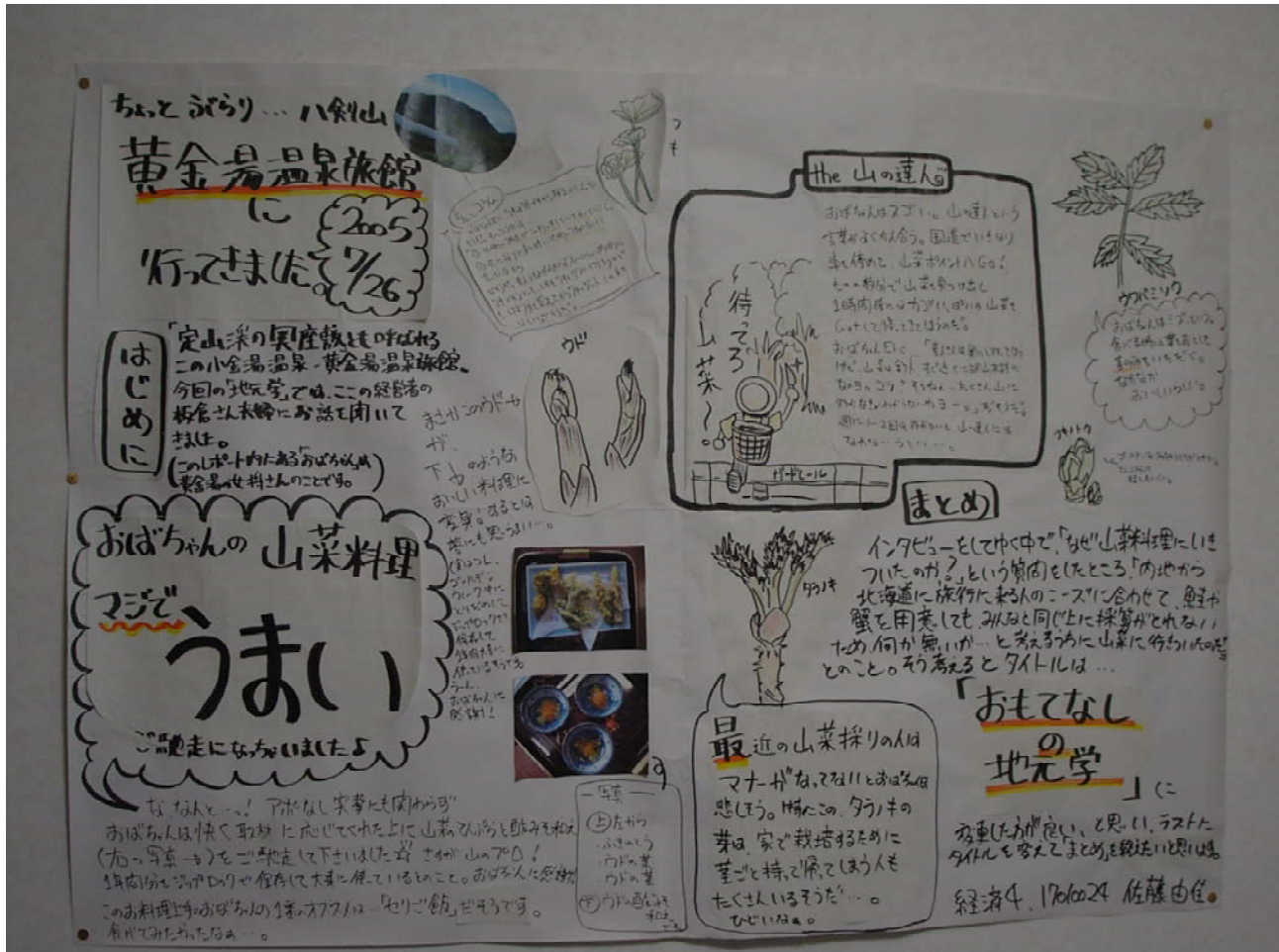


小金湯温泉旅館

板倉さんご夫妻



○ ちょっとコラム

おばちゃん曰く「フキは外側から採るべし！」だそう。そのココロは

- ① 外側のフキの方がシャキシャキしていておいしいこと。
- ② 次に来た時に、内側のフキがおいしく育っているから。

だそう。素人はそれがわからず、おいしくない内側のフキばかりとって、しかもフキをダメにしてしまうので、もっと採り方を覚えてからフキをゲットしに来てほしいそう。

○ the 山の達人

おばちゃんはすごい。山の達人という言葉がよく似合う。国道でいきなり車を停めて、山菜ポイントへGO！。

ものの数分で見つけ出し、1時間後にはカゴいっぱいの山菜をGetして帰ってきてしまうのだ。

おばちゃん曰く。「素人さんは奥へと行ってしまいうけど、山菜は案外、すぐ近くに沢山あるものなのヨ。コツ？。そうねえ... たくさん山に行かなきゃ、わからないわヨー。」だそう。

週に1～2回行かなきゃ、山の達人にはなれないらしい....。

黄金湯 温泉旅館

至
定山溪

【創業】

明治16(1883)
年創業
豊平



昭和18年の写真

初代 吉川 明治16
二代 澤口 " 26
三代 稲田 大正3
四代 宮崎 昭和2
五代 板倉 " 17

【定山溪温泉】

～小金湯桂不動
記念保護樹木～



樹齢700年のカツラ

定山和尚が小樽からの巡錫のみぎり、この老樹の根方に一夜の仮寝を結んだのだが、その夢枕に現われた樹霊に衆生済度の霊泉の湧源を示されたと伝えられている。明治26年中谷弥左衛門がこの地を所有するに及び、小金湯と名づけた。

【かは伝説】

その昔、からはがこの川に居たとの伝説。現在では、定山溪温泉街のシンボルとなっている。



旅館裏

【小金湯温泉街】

かつてこの地は平岸村と呼ばれていた。その後、豊平町と名が、昭和36(1961)年に札幌市と合併、南区の一部となった。

八剣山



【後記】

「あき良きもの」と銘付た黄金湯温泉旅館。しかし、私は、古さが「良く」現れていないと感じた。旅館の内外は、市内のキレイ好きな客を受け入れるには清掃が行き届いておらず、やはり「落ち着ける場所」が整備されていなかった。しかし、館主の板倉家のみなさんはとても親切で、都会にはない人間味を味わうことができた。経済の危機を乗り越え、人間味や繁華の良さに甘んじることなど、湯の復興に尽力すべきだと思う。最後に、突然の大雪にも関わらず村にいてくれた板倉家のみなさんに感謝。



経済学部
経営学科3年
川端真志
2015.07.27

【地理】

周辺は、果実中心の農業が盛んである。

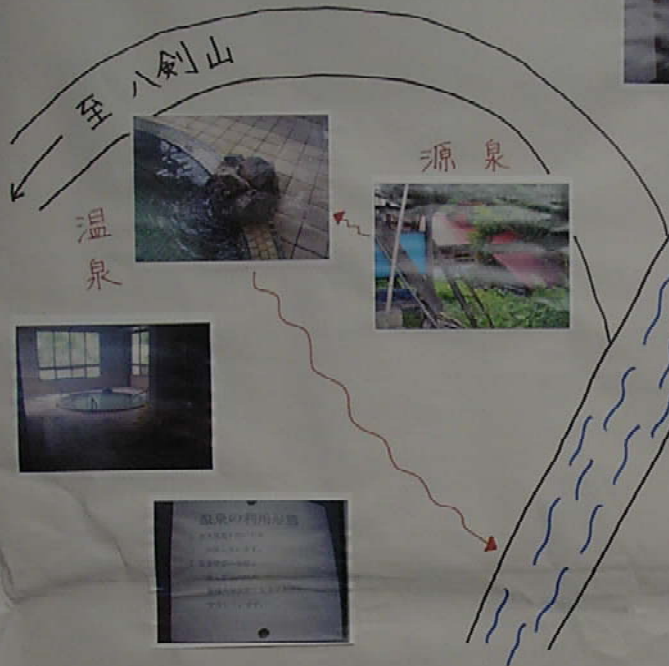
至
札幌

国道
113号
線

黄金湯

黄金湯温泉

効能…神経痛
リウマチ
皮膚病 など



利用料

2時間(1回)
450円
半日
900円

☆黄金湯温泉の水の流れ

- ① 温泉の裏にある岩盤から
わき出る湯をためる
- ② 湯を温泉まで引っぱり
- ③ 引っぱりきた湯をわかす
(源泉が30℃以下だから)
- ④ 温泉として利用する
- ↓ ⑤ 豊平川へ流す

・客層、客の流れ

札幌市内からのお客さんがほとんどで、年配の方が多い。また、夏季よりも冬季のほうが来客数は多い。スキーやスノーボード帰りに立ち寄るケースがよく見られる。しかし、最近では宿泊者・日帰り入浴者の減少が著しい。札幌市の敬老パスが廃止され、年配層の来客回数が減ったことや、札幌市内(桑園周辺)で温泉が掘られたことなど、時代の流れによる要因が大きいと考えられる。

・温泉について

黄金湯温泉は硫黄泉である。定山溪温泉とは泉質がちがう、黄金湯ならではの個性がある。

現在では年間を通して営業している黄金湯温泉だが、明治時代は寒さの影響で5月から11月までしか営業していなかった。夏にシャワーを浴びる感覚で低温の湯につかっていたと思われる。また、当時は温泉が日常生活でも利用されていた。お茶をわかすことや、ご飯を炊くことなど、最近では考えられない部分で温泉が登場した。

・感想

今回、黄金湯温泉に行ったことで、温泉の歴史を体感することができた。今後も温泉についての知識を深めていきたいと思う。

2005.7.27 経済学科4年 17020149 植田雅晴